

札幌市立大学 動物学教室

八田三郎様

傳史



六月十二日

大坂市西區南堀江通壹丁目
勝本鼎一

お成かのよら申下改よ
し月をねかし今月
天一向にぬるもる座
西人愈々えん式為平
の体神始きりら

オカリヤーさんのお子と
甘み流しに接しくん
はねの巻上かのお母さん
よりのお母さんのかじり

アオリカから座をかろふんは
あらく一層泊果執をるめ
るひせしと有こいひしが

金更のふり今は猶疑

アチチカから廣くは
あらく一層の果熟をうめ
るこせしと有といひしが
今其のこせし今は摘取
すべしと告ぐしむるや
く

チヨリおもへしは廣くは
而後には只管健康を
計すこと要しむるは
能く有しむるにせ

徳の字接を以ては
能く一層の果熟をうめ
るこせしと有といひしが
今其のこせし今は摘取
すべしと告ぐしむるや
く

但し其の希少なことは

陽子の能動的總なるを以て
従後下もするを安心するに
よるものなりと存す

但し、その希望として
後令しギョーと字接を流
ぬしゆごとくもせぬとてA
ある邊に我に在るは、その
子他を研究室の以て他
を定驛するを留は、
の研究室を尊せらるるも、
らるるものと存す、
いふものなり、
の研究室を尊せらるるも、
らるるものと存す、
いふものなり、

おのれをよきしむるは
高きよしの刺突きの様
を付るしとしくも不苦
多き罪をふり帯作の糸
の糸子端のしるは昔の
よしの

文は不取敵のし

新大

三月十日

一
仁上

八田の女上様

膝下

二伸、右親とんこの色沙汰
一、橋とるおのれとせし